

①

第36回日本パラ水泳選手権大会実施要綱

(世界パラ水泳連盟公認大会)

1. 目的
本大会は、指定地域大会等で参加標準を突破した全国の障がい者が、日本一を決定する国内最大の水泳競技大会である。この大会において自己の有する能力に挑戦し、社会へ参加する意欲を大いに喚起するとともに障がい者のスポーツ振興を図ることを目的とする。
また、多くの方にボランティア参加や選手への応援参加を呼びかけ、水泳競技の魅力を知ってもらうとともに競技力の向上に資する。
2. 主催
一般社団法人 日本身体障がい者水泳連盟
3. 主管
第36回日本パラ水泳選手権大会実行委員会
4. 協力
(一社)千葉県水泳連盟、関東身体障害者水泳連盟
(予定)
5. 後援
(予定)
スポーツ庁、厚生労働省、内閣府、(公財)日本障がい者スポーツ協会、日本障がい者水泳協会、(公財)日本水泳連盟、(一社)日本知的障害者水泳連盟、(社福)日本身体障害者団体連合会、(社福)全国社会福祉協議会、千葉県、(一社)千葉県障がい者スポーツ協会、(社福)千葉県身体障害者福祉協会
6. 協賛
(予定)
(株)大和証券グループ本社、大和ハウス工業(株)、パーク24(株)、
(株)ゴールドウイン、味の素(株)、(株)フジタ、全日本空輸(株)、
あいおいニッセイ同和損害保険(株)、富士通(株)、
DHLサプライチェーン(株)、タキロンマテックス(株)、
ヤマハ発動機(株)、JXTGエネルギー(株)、(株)ヒカリスポーツ、(株)グロリアツアーズ
7. 期 日
2019年11月23日(土)～24日(日)
クラス分け11月22日(金) 11時～
8. 会 場
千葉県国際総合水泳場 (50m×8レーン、水深2.04m)
※JR京葉線「新習志野駅」南口徒歩1分
〒275-0024 千葉県習志野市茜浜2-3-3
<http://www.chiba-swim.gr.jp/guide/main.html>
9. 競技方法
(1)個人種目は、男女別に行う。
(2)個人種目は、すべてタイムレースとする。
(3)リレーは、予選・決勝を行う。
10. 競技種目
別紙「競技種目一覧表」のとおり



11. 競技順序 15. 日程(3)競技日程のとおり

12. 競技規則 世界パラ水泳連盟(WPS)競技規則および本大会要綱等による

13. 参加資格および制限

知的障害の選手は別紙による。(以下はJPSF登録選手のみ)

(1)参加資格 個人種目は、下記「①②③」または「①②④」のいずれかに該当する者。

リレーは、下記①②を満たしている者。

①2019年度日本身体障がい者水泳連盟登録者。

②肢体不自由者および視覚障害者は、日本身体障がい者水泳連盟が認めたクラス分けをすでに受けている者。

② 下記の大会において、1種目以上別紙の参加標準記録に達している者。

- ・第29回東北障がい者選手権水泳競技大会
- ・第33回関東身体障がい者水泳選手権大会
- ・第26回中部障がい者水泳選手権大会
- ・第30回近畿身体障がい者水泳選手権大会
- ・第25回中国四国身体障害者水泳選手権大会
- ・第30回九州障がい者水泳選手権大会

④日本身体障がい者水泳連盟から推薦を受けた者。

(2)制限 ①個人種目は、1人2種目以内とする。ただし、リレーは含めない。

ただし、9月20日申し込み期限現在で国際パラリンピック委員会(IPC)ライセンス登録をしている選手については、4種目まで参加可能とする。

②リレーは、登録団体対抗とし、1団体1種目2チーム以内とする。

(3)留意事項 ①シニア部門(大会1日目現在で満50歳以上の方)について。

ア)種目は、50mの自由形・背泳ぎ・平泳ぎ・バタフライの4種目を実施する。

イ)一般の部の参加標準記録を達成している場合は、一般の部・シニアの部のいずれかを選択して出場することができる。

②1種目のみ参加標準記録を達成している者の中で、2種目に出場を希望する者は、参加標準記録を達成していなくても出場することができる。ただし、競技の進行に支障があると審判長が判断した場合、競技を中止させることがある。

③大会で実施する各リレーはポイント制を採用する。28ポイントリレーと38ポイントリレーの両方に同一選手が参加することはできない。

④400m自由形については下記「ア、イ」を満たしている者。

ア. クラス(S6、S7、S8、S9、S10、S11、S12、S13)

イ. 2019年IPC国際ライセンス登録者

14. 表彰

(1)男女別、種目別、およびリレー種目で1位、2位、および3位の選手にメダルを授与する。ただし、参加申込者が2名(チーム)までの種目は1位のみ、3名(チーム)の種目は2位までにメダルを授与する。

(2)リレー優勝チームには優勝トロフィ等を授与する。

- (3)完泳者全員に記録証を発行する。
- (4)この大会の記録はクラス分け結果を反映させてJ P S Fの記録として公認される。
リレーの第1泳者のタイムは公式記録として取り扱わない。
- (5)日本記録は個人種目で、ステイタスがJ、JR、JR西暦年、R、R西暦年、Cである場合を対象とする。
リレーは本大会のみの競技であり、大会記録のみとし、日本記録の対象としない。

15. 日程

- (1)受付時間 11月23日(土) 10:00 ~
11月24日(日) 8:30 ~
- (2)練習時間 11月22日(金) 13:00 ~17:00
11月23日(土) 10:00 ~11:30
11月24日(日) 8:40 ~ 9:50

(3)競技日程

競技順序	
11月23日(土) <1日目>	11月24日(日) <2日目>
開会式 11:35	競技開始 10:00
競技開始 12:15	21. 4×50mフリーリレー 28p 予選
1. 女子400m自由形	21. 4×50mフリーリレー 38p 予選
2. 男子400m自由形	22. 女子200m自由形
3. 女子200m個人メドレー	23. 男子200m自由形
4. 男子200m個人メドレー	24. 女子100mバタフライ
5. 女子150m個人メドレー	25. 男子100mバタフライ
6. 男子150m個人メドレー	26. 女子100m背泳ぎ
7. 4×50mメドレーリレー 28p 予選	27. 男子100mm背泳ぎ
7. 4×50mメドレーリレー 38p 予選	28. 女子50m平泳ぎシニア
8. 女子50m背泳ぎシニア	29. 女子50m平泳ぎ
9. 女子50m背泳ぎ	30. 男子50m平泳ぎシニア
10. 男子50m背泳ぎシニア	31. 男子50m平泳ぎ
11. 男子50m背泳ぎ	32. 女子50m自由形シニア
12. 女子50mバタフライシニア	33. 女子50m自由形
13. 女子50mバタフライ	34. 男子50m自由形シニア
14. 男子50mバタフライシニア	35. 男子50m自由形
15. 男子50mバタフライ	36. 4×50mフリーリレー 28p 決勝
16. 女子100m自由形	36. 4×50mフリーリレー 38p 決勝
17. 男子100m自由形	閉会式
18. 女子100m平泳ぎ	
19. 男子100m平泳ぎ	
20. 4×50mメドレーリレー 28p 決勝	
20. 4×50mメドレーリレー 38p 決勝	

注：申込状況などにより、一部変更することがある。

- (4) J-FCSクラス分け 11月22日(金) 11:00~(予定) ※受検可能な選手には別途案内がある。

16. 本大会におけるJ-FCSクラス分けについて

- (1) 下記①②③の条件をすべて満たす選手はクラス分けに申し込まなければならない。
- ① 2018年度第35回日本パラ水泳選手権大会で1位の選手
 - ② 肢体不自由者(S・SM1～10、SB1～9)の選手
 - ③ クラスステイタスが「L」「LR西暦」「LR」の選手
- (2) 肢体不自由(S21を含む)でステイタス「JR2019年以前」、「L」「LR西暦」「LR」の選手は希望すれば申し込むことができる。
- (3) 対応できる人数に限られるため、申込多数の場合は今回受検できないことがある。そのため、クラス分けテストの受検の可否については別途連絡する。また指定された実施時間の変更はできない。申込者は前もって金曜日の日程を調整しておくこと。
- *なお、クラス分けテスト受検の優先順位は概ね、
- ① 連盟が指定した選手
 - ② エントリータイムが100m以上の種目で上位の選手
 - ③ JR2018年以前の選手
- の順で優先する。
- (4) 肢体不自由のクラス分け受検については下記をよく読み、理解して受検すること。
- クラス分けを受検する肢体不自由の選手は100m平泳ぎ(SB1～3は50m平泳ぎ)と100m以上のS種目にエントリーしなければならない。
- 「競技とクラス分け」…競技とは障がい克服し、持てる能力をすべて発揮して行うものである。競技と同様に、すべてのクラス分け手順においてクラス分けに協力し、自分の持ちうる能力を発揮しなければならない。もし、クラス分けに協力しない、あるいは各テストで整合性が取れない、障がいが安定していない等と判断された場合は「クラス分け中止」ないし「クラスなし」となることがある。この場合、大会には参加できるが、表彰はなく、記録は公認されない。なお、クラス分けに際し診断書の提出を指示されたものは提出しなければならない。クラス分けテスト中は選手側のコーチやクラブメンバー、保護者などから1名、立ち会わなければならない。クラス分けはクラス分けの諸手続きからテストならびに競技観察まで含まれる。
- (5) 選手のクラス評価は今回のクラス分け受検者以外の選手についても、競技全般を通じて実施する。競技観察の結果クラス分け委員から指示があれば、選手はその指示に従わなければならない。
- (6) 視覚障害のクラス分けを希望する者は、診断書など書類の提出が必要である。
- (7) クラス分けテスト受検可の連絡があった者の内、受検上必要がある場合のみ追加の参加種目を認める。
(ただし、追加参加種目1種目当たり2,000円必要となる)

17. ドーピング検査 (以下、JADAからの注意喚起文による)

- ・ 本競技会は、日本アンチ・ドーピング規程に基づくドーピング・コントロール対象大会である。
- ・ 本競技会参加者は、競技会にエントリーした時点で日本アンチ・ドーピング規程にしたがい、ドーピング・コントロール手続の対象となることに同意したものとみなす。
- ・ 知的障がい者及び大会期間中現在で未成年者(18歳未満)については、ドーピング検査を含むドーピング・コントロール手続に対する親権者からの同意を所属競技団体へ別途提出しているもののみエントリーできる。
- ・ 本競技会参加者は、本競技会において行われるドーピング検査(尿・血液等検体の種類を問わず)を拒否又は回避した場合、検査員の指示に従わない場合、帰路の移動等個人的諸事情によりドーピング検査手続きを完了することができなかった場合等は、アンチ・ドーピング規則違反となる可能性がある。アンチ・ドーピング規則違反と判断された場合には、日本アンチ・ドーピング規程に基づき制裁等を受けることになるので留意すること。
- ・ 日本アンチ・ドーピング規程の詳細内容およびドーピング検査については、公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構のウェブサイト(<http://www.playtruejapan.org>)にて確認すること。

18. 免責事項

- (1)参加者の健康管理は、本人の責任とし各自十分注意すること。
- (2)会場における事故などについては応急処置のみとし、その他の責任は負わない。

19. 申込規定

知的障害の選手は別紙による。(以下はJ P S F登録選手のみ)

- (1)申込方法 ◇団体 別紙「団体用参加申込要領」を参照に申し込むこと
◇個人 別紙「個人用参加申込要領」を参照に申し込むこと
- (2)申込先 〒651-0085 神戸市中央区八幡通4丁目1-15 成樹ビル303
第36回日本パラ水泳選手権大会実行委員会
*申し込み書の送付は必ず、郵送で行うこと(切手などはご負担願います)
- (3)問合せ 下記にファックスまたはE-mailにて問い合わせること。
FAX:078-855-6685 E-mail: jpsf-moushikomi@paraswim.jp
- (4)参加費
個人種目 1種目:2,000円
リレー種目 1チームにつき3,000円
*参加費の納入は、下記指定口座への振込のみとする。その他の方法では受け付けない。

振込先 ① ゆうちょ銀行からの振込みは、ゆうちょ銀行の
記号 14220 番号 5189181
シヤ)ニホンシタイショウガイシヤスイエイレンメイ
② ①以外の金融機関からの振込みは、ゆうちょ銀行の
店名 四二八(読み ヨンニハチ) 店番 428 預金種目 普通預金
口座番号 0518918
- (5)締切日 2019年9月20日(金)必着
*締切後の追加申込・変更等は受け付けない。
*納入された参加料等は原則返金しない。
- (6)宿泊 斡旋はしない。
- (7)昼食 希望者は、参加申込書に必要数を記入すること。弁当1個900円(お茶付き)
- (8)その他 プログラム・スタートリスト 参加選手1人に1冊無償で配布予定

20. その他留意事項

- (1)J P S F所属選手については、本大会の記録は、国際大会出場選手など選考の参考記録にする。
- (2)水着については、原則としてFINA及びWPSの規則に従う。(従来の緩和規程は廃止する)
- (3)本大会では、ユーチューブによる中継を行う。誰もがインターネット等で競技を見ることができることを理解の上、参加すること。
- (4)(3)以外にも主催者や主催者が承認した報道機関に撮影・録音され、報道されることがあることを理解の上、参加すること。
- (5)主催者側で撮影・録音した肖像はJ P S Fの広報活動や教育教材として使用することがあることを理解の上、参加すること。



(6) 今回は、監督会議は行わないので、ホームページに掲載される注意事項を良く読んでおくこと。

また、当日必要な連絡事項は、アナウンスとともに会場に掲示する。

(7) 車椅子の貸し出しはないので、必要な方は各自用意すること。

(8) 競技中は安全を第一に行う。大会に参加する選手は、健康体であり、大会の参加に備えてトレーニングを十分に行っていること。障がい以外に高血圧症、心臓病等の持病があるなどがあれば主治医に競技参加の許可を得て出場すること。健康状態において、競技続行中止の命令が出た場合は速やかに競技を中止すること。

(9) 一旦納入された参加料は、原則返金を行わない。

(10) その他、大会の開催について必要な事項は、第36回日本パラ水泳選手権大会実行委員会が定める。

